

「政治とカネ」の「カネ」とは どのような金銭であるのか

The Meaning of *Kane* (Money) in the Phrase *Seiji to Kane* (Politics and Money)

— 「カネ」と「金」表記の印象に関するアンケート調査結果から —
A Questionnaire Study on the Impression of *Kane* Written in
Katakana and Kanji

増地 ひとみ
Hitomi MASUJI

1. 研究の背景と目的

日ごろ新聞や雑誌、テレビのテロップなどといったマスメディアにおける文字情報を見ていると、【政治とカネ】¹⁾ という表現を見かける。【カネ】は「金」、つまり金銭を意味しているが、漢字ではなくカタカナで表記されている。カタカナの主な役割は外来語を表記することであるが、「金」は外来語ではない。つまり、通常であれば【政治と金】となるところ、何らかの理由によって【政治とカネ】とカタカナで表記されたものであると解釈できる。

外来語以外の語（非外来語）がカタカナで表記されるこのような例は、現代日本語において一定数観察される。そのため、非外来語がカタカナで表記される要因が先行研究によって考察されてきた。例えば、「特殊な意味やニュアンス、語感をもたせるため」というのは、複数の先行研究で指摘されてきた要因の一つである（増地ひとみ 2019a, p.155）。【カネ】も、それが要因となってカタカナで表記された例として先行研究において取り上げられてきた。しかしながら、【カネ】や【政治とカネ】という表現が、その表記を見た受け手に実際にどのような印象を与えているのかは明らかになっていない。また、「金」を漢字で表記した【政治と金】という表現もマスメディアでは流通しているが、【政治と金】【政治とカネ】各々を見た受け手がいなく印象は同じなのか否かも不明である。

実際のところ、受け手は【政治とカネ】の【カネ】を、どのような金銭と捉えているのであろうか。本稿では、【政治と金】【政治とカネ】各々の表現における受け手側の印象をアンケート調査によって明らかにし、特に非外来語であるにもかかわらずカタカナで表記された【政治とカネ】の【カネ】がどのような金銭として現代の日本語使用者に受容されているのかを考察する。

2. 先行研究と本稿の位置づけ

現代日本語の文字言語において、4種類の文字種—漢字・ひらがな・カタカナ・Alphabetが使い分けられる時には、背後に何らかの要因が働いている。これまで多くの先行研究によって、特

に非外来語がカタカナで表記される要因が考察されてきた。それらの先行研究と、指摘されてきた要因とを整理して示したのが増地 (2019a) である。増地 (2019a) で挙げた以下の先行研究においては、【カネ】というカタカナ表記について言及されている。

野村雅昭 (1981) は、1979年7月に刊行された週刊誌から漢語と和語 (非外来語) のカタカナ表記を抽出した。その一つとして、用例「長く働けば、それだけカネになった」が示されている (p.859、下線は原文による)。野村 (1981) は「漢字でかかれても、あるいは、ヒラガナでかかれても、別にふしぎはない」にもかかわらず週刊誌にはこのような例が数多く見られるとし、「いかにも週刊誌らしい」と述べる (pp.858-859)。そして、この用例の【カネ】がカタカナ表記された理由を「単語に特殊な意味や語感をもたせる」ためであると考察している (p.860・862)。

中山恵利子 (1998) によると、外国人に対する日本語教育の現場では、なぜ非外来語にカタカナが使われるのかという質問を受けることがあるという。そして、その例として【カネ】が挙げられている。中山 (1998) は1997年発行の『朝日新聞』朝刊3日分を対象にカタカナ表記語の調査を行った研究であり、【カネ】もその際に抽出された用例の一つである。中山は、この【カネ】がカタカナ表記される理由を「表記者が本来の意味に特別な意味を加味している場合」と考察している (p.70)。「例えば、「カネ」はここでは選挙資金を指すという具合である」との解説があり、ここでの【カネ】はその文脈から「選挙資金」と判断されたとのことである。

柏野和佳子・奥村学 (2012) は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)²⁾を用いて、書籍における非外来語のカタカナ表記60語の実態を調査した。具体的には、「金(かね)」などの60語に関し、カタカナ、ひらがな、漢字それぞれによる使用頻度を明らかにした。「金(かね)」という語の使用頻度合計は3,601であり、うち92.8%に当たる3,340例が漢字で書かれた【金】であったという。カタカナ【カネ】の使用頻度は257(7.1%)であった (p.157)。柏野・奥村は【カネ】がカタカナ表記される理由を、「同字語を避けたい場合」、つまり、「キン」と読む【金】と区別するためと考察している。そして、書籍において【カネ】の使用頻度が低いのは、書籍では同字語を避ける必要があまりなく、【金】が使われたためであろうと述べている (p.160)³⁾。

このように、【カネ】がカタカナで表記される理由は、特別な意味や語感(印象)を持たせることや、「キン」と読む【金】と区別することであるというのが先行研究における代表的な考察結果である。冒頭でも述べたように、【カネ】やその他の非外来語がカタカナで表記されると特別な意味やニュアンスが付加されるとの記述は、数多くの先行研究で見られる。しかし、それらを見た受け手が実際にどのような意味やニュアンスをそこから感じ取っているのかを実証的に明らかにした先行研究は見当たらない。

さて、ここまで挙げた先行研究で例示されていたのは【カネ】であり、【政治とカネ】ではない。上記の【カネ】の中には、【政治とカネ】というまとまりで使用されたものも含まれていると推察されるが、上述した先行研究は【政治とカネ】という表現に特に着目しているわけではない。そのような中、日本語と英語における非標準的な表記を研究対象とした杉本豊久 (2009) において、【政治とカネ】は「簡潔性・明晰性・省略型」の表記であり、「平易さ・分かり易さの効果、

記憶に残りやすいという効果」がある表現の類例として列挙されている (p.64)。さらには、「弁別性・区別性：ひらがなや漢字表記との違いをもたらす効果」(p.61)がある類例として、また「バランス性：メリハリ効果」(p.60)がある類例としても挙げられている。しかし杉本(2009)においても、【政治とカネ】が創出する意味やニュアンスが具体的に明らかにされているわけではない。

【政治とカネ】におけるニュアンスに言及したのは、筆者自身による増地(2013)である。増地(2013)では、テレビ番組のテロップを調査対象として非外来語のカタカナ表記の実態を調査した。そして、報道番組において観察された【政治とカネ】に関して、先行研究を踏まえつつ筆者の内省によって次のような解釈を述べた (p.29)。

【政治とカネ】については、マス・メディアでよく使用される表現であるが、「政治絡みの裏の金、汚い金である」等のニュアンスを付加しようとしたものであると解釈できる。従来とは少々異なる意味やニュアンスで語を使用していることを、表明しているのである。

先行研究で言われてきたところの「特別な意味や印象」を、増地(2013)では「政治絡みの裏の金、汚い金である」等のニュアンス」と表現したわけである。しかし、これはあくまで筆者が普段目にする【政治とカネ】を、前後の文脈を踏まえて解釈したものである。現代の日本語使用者が【政治とカネ】にどのような印象をいだくのか、【政治とカネ】の【カネ】がどのような金銭として受け手に捉えられているのかは未だ不明である。

以上を踏まえ、本稿では【政治とカネ】【政治と金】両者における印象を調査し、現代において【政治とカネ】の【カネ】がどのような金銭として認識されているのかを明らかにする。具体的には、以下の設問に答えていく。なお、本稿において「印象」と「イメージ」とは同義に用いる。

RQ1. 現代の日本語使用者は、【政治とカネ】【政治と金】に印象の違いを感じるのか。

RQ2. 【政治とカネ】【政治と金】は、各々どのような印象を受け手に与えているのか。

RQ3. カタカナ表記の【政治とカネ】の【カネ】は、どのような金銭であると言えるのか。

3. 【政治とカネ】【政治と金】という表現の流通状況

アンケート調査の結果を提示するのに先立ち、【政治とカネ】【政治と金】という表現の流通状況を確認しておく。新聞社・出版社が提供するデータベース⁴⁾および CiNii⁵⁾において、【政治とカネ】【政治と金】を検索語として記事の検索を行った結果を表1に示す。

表1に挙げたデータベースに収録されている記事で【政治とカネ】が初めて使用されたのは、1956年、『朝日新聞』においてである。最近では2019年に入ってから各新聞で使用されている。初出時以降現在に至るまで、【政治とカネ】は、主要な新聞で継続して使用されているものと推測される。表1に挙げたいずれの新聞・雑誌においても、【政治と金】よりも【政治とカネ】のほうがはるかに高頻度で使用されている。

表1：マスメディアその他における【政治とカネ】【政治と金】

データベース名	検索語	初出	最新の記事	抽出件数	検索対象(※)
朝日新聞『聞蔵Ⅱ』	【政治とカネ】	1956年4月6日	2019年7月31日	5,295	「朝日新聞1985～週刊朝日・AERA」全期間 「縮刷版1879～1999」の1984年まで
	【政治と金】	1952年10月21日	2019年6月16日	677	
読売新聞『ヨミダス歴史館』	【政治とカネ】	1971年2月5日	2019年7月13日	5,099	「明治・大正・昭和」「平成・令和」
	【政治と金】	1967年1月8日	2019年5月29日	505	
中日新聞 東京新聞 記事データベース	【政治とカネ】	1981年11月22日	2019年8月22日	4,964	検索画面で「全期間」を対象
	【政治と金】	1989年3月24日	2019年1月8日	297	
日経BP記事 検索サービス	【政治とカネ】	1976年5月	2019年4月	66	雑誌記事
	【政治と金】	2003年4月	2014年12月	4	
東洋経済 デジタルコンテンツ ライブラリー	【政治とカネ】	1997年2月	2018年4月	71	『週刊東洋経済』
	【政治と金】	2011年1月	2019年6月	5	
CiNii	【政治とカネ】	1956年3月	2019年5月	205	「論文検索」
	【政治と金】	1978年5月	2019年3月	23	

※各データベースの検索画面にて、ここに挙げた項目や範囲を指定して検索対象とした。

なお、【政治と金】を検索語として検索を行うと、【金】部分が単なる【金】ではなく【金融】【金権】等である用例も抽出されてくる。例えば CiNii で確認すると、【政治と金】を検索語として抽出された 23 件のうち、【金】部分が【金権】等であるものが 5 件見られた。表 1 の各データベースにおける検索結果にも、同様の例が一定数含まれるものと考えられるが、ここではそれらを 1 件ずつ確認して除外することはしていない。また、読売新聞『ヨミダス歴史館』の検索結果には【政治家と金】等の用例も含まれている。

BCCWJ は収録対象出版物の刊行年代が 1976 年から 2005 年と限定されているため表 1 には含まれていないが、BCCWJ で【政治とカネ】を検索すると 13 件抽出され、うち 1 件は 2003 年の『朝日新聞』が出典である。【政治と金】は 4 件抽出された。4 件すべてが【政治と金】であり、【金】部分が【金権】等であるものは含まれていなかった。

4. アンケート調査について

本章ではまず、アンケート調査の概要と調査協力者の「接触メディア」、アンケートの質問項目について示す。続く 5 章で調査結果を見ていく。

4.1 アンケート調査の概要

アンケート調査の概要は以下のとおりである⁶⁾。

- ・実施時期：2018 年 7～10 月
- ・調査協力者：愛知淑徳大学学生および社会人（教職員を中心に、筆者の知人など）計 136 人
- ・教室にて質問紙を配付、あるいは個別に質問紙を渡し、手書きで回答してもらった。本稿における調査の質問は、全体で 21 問のアンケートの 18 問目である⁷⁾。

調査協力者の属性は表 2 のとおりである。年齢は、学部生は全員が 10 代または 20 代である。社会人は 20 代から 50 代の幅がある（20 代：6 人、30 代：21 人、40 代：7 人、50 代：7 人）。

表 2：調査協力者の属性（人）

	学部生	社会人	合計
性別	男	8	24
	女	33	112
合計	95	41	136

4.2 調査協力者の「接触メディア」

本アンケート調査では、フェイスシートで「接触メディア」について尋ねた。「日本語の文章やまとまった文字情報を何で見ることが多いか」について複数回答を求めた後、その中から「1日の中で最も利用時間が長い」ものを一つだけ選択させた（表3）。集計結果は表4・5のとおりである。本稿ではマスメディアで見られる表現を扱うため、後の検討のため本節で提示する。

表3：フェイスシートの「接触メディア」に関する質問部分

接 触 メ デ ィ ア	日ごろ、日本語の文章やまとまった文字情報を何で見ることが多いですか。（複数回答可） 1. 本・雑誌など（紙の媒体） 2. 新聞（紙） 3. 新聞（Web上） 4. テレビ 5. インターネット（PC） 6. インターネット（タブレット端末） 7. インターネット（携帯電話・スマートフォン） 8. メール・Twitter・LINE など 9. 大学の授業で（配布される資料やPPTなど） 10. その他（ ）
	上で○をつけた接触メディアのうち、1日の中で最も利用時間が長いものはどれですか。 番号を記入してください。（回答は一つだけ）（ ）

表4：接触メディア（複数回答） ※メディア欄の数字は、表3の選択肢の番号に対応。

メディア	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計(のべ)
人数(人)	105	41	24	49	57	26	124	105	62	3	596

表5：1日の中で最も利用時間が長い接触メディア（回答は1名につき一つのみ）

メディア	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
学部生 (上段は人数)	6 6.3%	0 0.0%	1 1.1%	1 1.1%	1 1.1%	0 0.0%	38 40.0%	43 45.3%	4 4.2%	1 1.1%	95 100.0%
社会人 (上段は人数)	6 14.6%	1 2.4%	0 0.0%	2 4.9%	8 19.5%	1 2.4%	17 41.5%	4 9.8%	2 4.9%	0 0.0%	41 100.0%
回答者全体	12 8.8%	1 0.7%	1 0.7%	3 2.2%	9 6.6%	1 0.7%	55 40.4%	47 34.6%	6 4.4%	1 0.7%	136 100.0%

回答者全体において、「7. インターネット（携帯電話・スマートフォン）」「8. メール・Twitter・LINE など」と回答した者の合計が75.0%であった。これを学部生・社会人別に見ると、学部生においては7と8の合計で85.3%を占める。本研究の調査対象者である学部生は、日ごろ、主にインターネット（携帯電話やスマートフォンを利用）やメール・Twitter・LINEなどを通して日本語の文章やまとまった文字情報に接しているということである。社会人においても、7の回答者、つまり「携帯電話やスマートフォンを通してインターネットを見ることで、日本語の文章やまとまった文字情報に接する時間が1日の中で最も長い」とした回答者が最も多く、41.5%であった。日本語使用者の言語生活（文字言語との接触、受容）は、インターネット、またTwitterやLINEが存在しなかった時代とは様変わりしている。

学部生と社会人とで差が見られるのは、学部生の回答が多かった8番の「メール・Twitter・

LINE など」、社会人の回答が多かった1番の「本・雑誌など（紙の媒体）」と5番の「インターネット（PC）」であった。以下、本稿では必要に応じて学部生と社会人との間で比較を行う。

4.3 【政治とカネ】【政治と金】に関するアンケートの質問項目

アンケートにおける質問の内容は、表6のとおりである。自由記述欄の空行は削除した。

表6：【政治とカネ】【政治と金】に関するアンケートの質問項目

<p>Q18. 新聞や雑誌、テレビのテロップでは、「政治とカネ」という書き方をします。</p> <p>Q18-1. 「政治とカネ」と「政治と金」とでは、「かね」という語から受ける印象は異なりますか。</p> <p>a. 異なる (⇒Q18-2へ)</p> <p>b. 異なるない (同じ) (<input type="checkbox"/> Q18-3へ)</p> <p>「a. 異なる」と答えた方へ</p> <p>Q18-2. どのように印象が異なりますか。カタカナの場合、漢字の場合、それぞれについてお書き下さい。(回答後はQ19へお進み下さい。)</p> <p><input type="checkbox"/> 「b. 異なるない」と答えた方へ</p> <p>Q18-3. 語から受ける印象が同じなのに、なぜ、わざわざ「カネ」とカタカナ表記しているのだと思いますか。(回答後はQ19へお進み下さい。)</p>

5. アンケート調査結果

5.1 現代の日本語使用者は、【政治とカネ】【政治と金】に印象の違いを感じるのか (RQ1)

アンケート(表6)のQ18-1の集計結果が、2章で設定した設問RQ1「現代の日本語使用者は、【政治とカネ】【政治と金】に印象の違いを感じるのか」への答えとなる。

Q18-1で、【政治とカネ】【政治と金】の「かね」という語から受ける印象が「a. 異なる」と答えた回答者は127人(93.4%)、「b. 異なるない」と答えた回答者は9人(6.6%)であった。二項検定を行ったところ、「a. 異なる」と答えた回答者の割合は「b. 異なるない」と答えた回答者の割合よりも有意に高かった($p < .001$)。したがってRQ1への答えは、「現代の日本語使用者は、【政治とカネ】【政治と金】に印象の違いを感じる」である。

さらに、「a. 異なる」と答えた回答者と「b. 異なるない」と答えた回答者の人数に、学部生か社会人かという属性の違いによる差があるかどうかを調べた。表5に示したように、1日のうち最も利用時間が長い接触メディアに関して学部生と社会人との間で異なる点が見られたためである。結果、「a. 異なる」と答えた回答者は、学部生では95人中87人(91.6%)、社会人では41人中40人(97.6%)であった。フィッシャーの直接確率を求めたところ、【政治とカネ】【政治と金】の「かね」という語から受ける印象が異なるか否かという点において、学部生か社会人かという属性の違いによる有意差は見られなかった($p = .277$)。この結果を踏まえ、以下の本稿

で10回出現した「真面目」は【カネ】で1回見られたことを補足しておく。表7・8に示された語群からは、全体的な傾向として、【政治とカネ】が受け手に否定的な印象を与えている様子が見て取れる。また、【政治と金】は、【政治とカネ】に比べれば肯定的な印象を与えているように思われる。同時に、表7と表8からは、【政治とカネ】【政治と金】各々の印象の記述内容が多彩であり、回答者による個性が存在する可能性も読み取れる。

5.2.2 同一の回答者による【カネ】と【金】の印象

前項で見たテキストマイニングツールでは、自由記述内容の大まかな状況を知ることはできるものの、同一の回答者が【カネ】【金】それぞれにどのような印象をいただいているのかはわからない。そこで、回答者ごとの回答内容を詳しく見ていく。【政治とカネ】【政治と金】から受ける印象が「異なる」とした127人について、「どのように印象が異なるか」(Q18-2)に対する回答内容を精査したところ、以下のように分類できた。カタカナ表記の【政治とカネ】を軸にして①～⑤の5種類にまず分け、さらに下位分類した。①②は、「善悪」など「否定的か肯定的か」を基準に【政治とカネ】の印象を述べるもの、③は「軽いか重いか」また「やわらかいかかたいか」といった「硬軟」を基準に【政治とカネ】の印象を述べるものである。④は表現効果（読み方を含む）に関する記述が中心の回答である。

- ① 否定的な印象をカタカナ表記【政治とカネ】に対して述べる回答（計79人）
 - 1. 【政治とカネ】に否定的な印象、【政治と金】に肯定的な印象 25人
 - 2. 【政治とカネ】【政治と金】双方に否定的な印象 1人
 - 3. 【政治とカネ】に否定的な印象、【政治と金】に「かたい」印象 4人
 - 4. 【政治とカネ】に否定的な印象、【政治と金】では読み方に言及 1人
 - 5. 【政治とカネ】に否定的な印象、【政治と金】については中立的な記述または上記1～4以外の回答 48人
- ② 肯定的な印象を【政治とカネ】に、否定的な印象を【政治と金】に対して述べる回答 1人
- ③ 「軽い」「やわらかい」等の印象をカタカナ表記【政治とカネ】に対して述べる回答（計14人）
 - 1. 【政治とカネ】に「軽い」「やわらかい」印象、【政治と金】に「重い」「かたい」印象 10人
 - 2. 【政治とカネ】に「軽い」「やわらかい」印象、【政治と金】については「重い」「かたい」以外の回答 4人
- ④ カタカナ表記【政治とカネ】の表現効果（読み方を含む）に言及する回答（計23人）
 - 1. 【政治とカネ】で表現効果に言及、【政治と金】に「かたい」印象 3人
 - 2. 【政治とカネ】【政治と金】双方で表現効果に言及 2人
 - 3. 【政治とカネ】で表現効果に言及、【政治と金】で上記1・2以外の回答 18人
- ⑤ その他（①～④以外）10人

① 否定的な印象をカタカナ表記【政治とカネ】に対して述べる回答

カタカナ表記の【政治とカネ】を軸に考えたとき、最も回答数が多かったのは①の「否定的な印象をカタカナ表記【政治とカネ】に対して述べる回答」(79人)であり、回答者全体(136人)の58.1%を占めた。その中で、①-1の【政治と金】に肯定的な印象を述べた回答者は25人であった。【政治とカネ】【政治と金】から受ける印象が「異なる」と回答した127人の約5分の1にあたる。これら25人の回答内容を表9に示す。以下、表内の記述は、漢字と仮名の使い分け、記号等、すべて原文のままである。また、表以外の本文中では回答者による記述を〈 〉でくくり、同様に原文のまま引用する。

表9：【政治とカネ】に否定的、【政治と金】に肯定的な印象を記述した回答(①-1)

回答者	【政治とカネ】	【政治と金】
1	カタカナ＝何か悪い意味で使われている印象を受ける。ワイロとか…	漢字＝政治で動く経費としてのお金など、正式なものという印象を受ける。
2	カタカナ→「あくどい事に使われるお金」的な印象	漢字のとき→比較的真つ当な印象
3	カネは不真面目に使った金。汚職とかに見える	金は真面目に使った金。
4	カタカナの場合、あまり印象が良くないような感じがする。	漢字の場合、何かそこに誠意を感じるような気がする。
5	カタカナ→なんとなくうさんくさい、裏ルートのようなものをイメージする。	漢字→その使い道やどんな問題かはさておき、税金などとりあえず出所が正統なものをイメージする。
6	カタカナ→政治関連で悪いイメージの情報。ウソかもしれない。	漢字→報道番組のイメージなので、しっかりとした情報を伝えてくれそう。
7	カタカナの場合、少し安っぽい印象がする。	漢字の場合、お金が重要な感じがする。
8	カタカナであると不祥事等の悪い内容に見える。	漢字であると真面目な内容に見える。
9	「カネ」とかくと汚ない感じがする(賄賂とか)	「金」は真面目な感じ。
10	カネ→うさんくさそう	金→正当派
11	カネ→汚いお金、お金に関する問題が取り上げられていそう。	金→正しく使われているお金
12	カタカナの場合→俗物的な感じがする。スキャンダルっぽい。	漢字の場合→経済のことと感じる。クリーンな話。真面目な印象。
13	カネ:後ろぐらいイメージ	金:ちゃんとした金(予算)とかのイメージ
14	カネの方が汚ないかんじがする←ゴシップみたいなの。	漢字の方がまじめそう。
15	カタカナ→嫌味な感じがする。いやらしさ満載!	漢字→清らかなイメージ。醜さがうすれる。
16	カタカナ→冷めた印象。問題と正面から向かっていない印象。	漢字→問題ときちんと向き合っている印象
17	カタカナの場合→裏金などの良い印象ではないお金	漢字の場合→政治資金のようなクリーンな印象のお金
18	・カネの場合:政治家が不正に利用もしくは着服したような印象を受ける	・金の場合:政治に対して正当に使われたという印象を受ける
19	カタカナ:不正が行われていることを表すような悪い印象がある	漢字:正しくお金が使われているような感じがする。
20	カタカナ:汚いマイナスイメージ。	漢字:真面目ななし・専門的な。
21	カタカナは悪い印象を受ける	漢字はまじめな印象を受ける
22	カネは悪いものを連想する。汚職	金は政治関連で正当に使われるものをイメージする
23	何か悪いニュース(横領など)、政治の闇の部分といった印象。	純粋に金銭の意味でとれるので真面目な印象。
24	不正に使われている印象	正しく使われている印象。
25	カタカナの場合…シビアな感じがする。少し怖いものを扱うような。本当は触れてはいけないものに触れてしまっているような。	漢字の場合…まじめな印象。“The 社会問題”という感じ

表9の回答者は、「否定的⇔肯定的」「善⇔悪」という対立関係で【政治とカネ】【政治と金】各々の印象を捉えている。ひと言で「否定的⇔肯定的」「善⇔悪」と言っても回答者によって表現は多様であるが、漢字表記の【政治と金】では「真面目/まじめ」との記述が目立つ。

双方に否定的な印象を記述した回答者(①-2)も1名おり、その回答内容は〈カタカナ→裏金など悪いイメージ 漢字…金銭によるトラブル。大金のイメージ。〉というものであった。そして、

①-3の「【政治とカネ】に否定的な印象、【政治と金】に「かたい」印象」をいだとした4人の回答内容は、次のとおりである。ここでの「かたい」には、回答者が文字どおり「かたい」と記述している場合のほか、「かしこまった」場面なども含む。

- ・〈カタカナの場合、卑しい感じがする。印象が強く残る。漢字の場合はあまりパツとしない。教科書のような感じ。〉
- ・〈カタカナの場合→うさんくさい、なまなましい 漢字の場合→かたい〉
- ・〈カタカナだとお金は政治で動くもののように感じるから⇒汚いお金 漢字だと、お金と政治について予算などを混ぜてかしこまってる印象を受ける〉
- ・〈カネは汚いイメージが、金は堅いイメージがある。〉

次に、①-4の【政治とカネ】に否定的な印象、【政治と金】では読み方に言及する回答者1名の回答内容は〈カタカナの場合、より悪質さを感じる。漢字の場合、瞬時に“カネ”と読むことが難しい。(ふだん“キン”と読むことが多いため。〉というものであった。カタカナに「より」悪質さを感じているという記述には、漢字表記の【政治と金】に対してもある程度の悪質さを感じているという含みが存在する。

さらに、【政治とカネ】に否定的な印象を指摘し、【政治と金】については中立的な記述または①-1から①-4に当てはまらない記述をした回答者が48人存在した(①-5)。回答内容の一部を表10に示す。回答者26～31のような、【政治と金】の【金】から特別な印象や意味を受けなかった回答者は17人であった。32～37は、〈カタカナの方が〉〈カネの方が〉という表現に表れているとおり、【金】との比較において【カネ】が何らかの否定的な印象を持つ、とした回答群である。これに類する回答は、①-5に分類した48人中12人に見られた。このように【カネ】【金】いずれかの表記との比較において印象を相対的に捉える回答者はほかにもおり、例えば表9の14や後述する②の回答者はその一例である。①-5に該当する残りの19人の回答は39～45のような内容であり、45のように【政治とカネ】を【政治と金】に含まれる下位概念として捉えた回答も見られた。

ここまでは、回答者数が79人と最も多かった「①否定的な印象をカタカナ表記【政治とカネ】に対して述べる回答」を見てきた。その記述内容はバリエーションに富み、いずれも【政治とカネ】から何らかの否定的な印象を想起しているものの、全く同じ回答は存在しない。

なお、①の回答者の属性に際立った特徴は見いだせなかった。学部生・社会人の別では、①の回答者79人における学部生(55人、69.6%)と社会人(24人、30.4%)の比率は、本稿の調査対象者全体における学部生(95人、69.9%)と社会人(41人、30.1%)の比率とほぼ同じであった。「1日の中で最も利用が長いメディア」を見ても、表5に示したのと同様、7番の回答者が最も多く46.8%、2番目に多いのが8番の回答者で29.1%であった。7番は携帯電話やスマートフォンを介してインターネット上で日本語を見ることが最も多い回答者、8番はメール・Twitter・LINEなどで日本語を見ることが最も多い回答者である。カタカナ表記の【政治とカネ】に否定的な印象をいだと回答者に、学部生か社会人か、また1日の中で最も日本語を見る時間が長いメディアは何か、という属性による差は存在しないと考えられる。

表 10：【政治とカネ】に否定的、【政治と金】に中立的な記述をした回答（①-5、一部）

回答者	【政治とカネ】	【政治と金】
26	カネ…裏金のような、公にはできないお金	金…一般的な、普段私たちが持つお金
27	カタカナの場合、なんとなく汚職のイメージがある。	漢字はそのままお金のイメージか、金塊の金のイメージ。
28	カネは何か裏がありそう。ただ、物を得るためだけではなさそう。汚ない使われ方をしてそう。	金だと物を得るために払うという意味だけのお金。
29	カネ…よくないお金についての報道かな、と思う。	金…一般的に使われているので特に何も思わない。
30	カネ:正しくない使われ方をするお金、といったネガティブなイメージがある。	金:中立的「きん」とまちがえて解釈される可能性も0ではない。
31	カネは金目のモノ、ワイロ性を表わしているイメージ	金は現金
32	カタカナの方が漢字よりもいやらしく書こうとしているように感じる。	—
33	金よりカネの方が軽率に悪いことに使われてそう。	—
34	カネのがトゲトゲしい。良くないつながりを強調している印象	—
35	カネの方が悪い印象が強い(汚職、賄賂に使われてそう)	金は正式なお金(給料や税金)のイメージがある。
36	カタカナの方が悪いイメージを連想しそう。	漢字は悪いイメージはあまりもない。
37	カタカナ表記は「悪」のイメージを感じる。	漢字表記はカタカナ表記ほど悪いイメージを抱かない。
38	・カタカナの場合 あまり良いイメージではない。悪い意味で使用されていそう。ゴシップで使われている印象。	・漢字の場合 悪いイメージはそんなにない。
39	下衆な印象がある。 ゴシップネタだろうと予想してしまう。横領のイメージ。	・ゴシップ色がやや弱まる。政治資金にかかわるだろう、と予想する。
40	不正なお金がかからんでいるイメージがある。	政治と金(金銭)が切り離せない関係であること、莫大な金額がかかわっていることを感じさせる。
41	カタカナ:汚職や収賄のようなゴシップ的な記事というイメージ。	漢字:政党交付金のようなシステムとして政治に必要なお金の報道というイメージ
42	カネだと給料とか、おしよとかのかんじ	金は予算とかのかんじ
43	カタカナの場合…汚しよく金など「政治家」が「金」について何かトラブルをおこしたような、金が悪いことにかかわっている印象。	漢字の場合…財政問題など「金」が政治と重要に関わっているような印象。
44	カタカナ…汚い金のイメージ。収賄がちらつく。	漢字…国家予算や経済のイメージ。
45	マネーロンダリング等のいわゆる汚い金を連想する。	漢字は前者を含む政治と金の関係全般を連想する。

② 肯定的な印象を【政治とカネ】に、否定的な印象を【政治と金】に対して述べる回答

本稿の調査では、カタカナ表記【政治とカネ】に肯定的な印象を、【政治と金】に対して否定的な印象を述べる回答者も1名存在した。その具体的な回答内容は次のとおりであり、〈メディアのときは〉と限定つきの回答であった。

〈金…下品な感じがする カネ…メディアのときは漢字よりカタカナのほうが印象が良い〉

③ 「軽い」「やわらかい」等の印象をカタカナ表記【政治とカネ】に対して述べる回答

次に、「善悪」を含む「否定的か肯定的か」という切り口とは異なる、「軽さ・重さ」「やわらかさ・かたさ」といった「硬軟」の視点で印象を述べた計14人の回答を見ていく。カタカナ表記に対する印象を「軽い」と記述した回答者は4人、「やわらかい」とした回答者は3人であった。「軽い」「やわらかい」のほか、「親しみやすい」「安っぽい」などの、否定的とまでは言えないが「軽い」「やわらかい」に類する印象の記述もここに含む。

【政治とカネ】に「軽い」「やわらかい」あるいはそれに類する印象をいだし、【政治と金】には反対に「重い」「かたい」等の印象をいだいたとの回答者(③-1)は10人であった。例えば、〈カタカナの場合は軽い感じ。漢字の場合重くうけとめるように感じる。〉〈カタカナの方がバラエティチックで印象がやわらかくなる。漢字はかたい印象〉〈カネの場合、少しラフなイメージになり、

金となると堅いイメージを感じます。〉などの記述が見られた。

また、【政治とカネ】には「軽い」「やわらかい」等の印象を記述し、【政治と金】については「重い」「かたい」以外の記述をした回答者(③-2)は4人おり、各々の記述内容は表11のとおりである。うち1人は、【金】に関する回答の記述がなかった(49)。

表11:【政治とカネ】に「軽い」「やわらかい」等、【政治と金】に「重い」「かたい」等以外の記述をした回答(③-2)

回答者	【政治とカネ】	【政治と金】
46	カタカナの場合は「お金」というイメージが少し柔らかくなる印象。	漢字の場合は、より「お金」という印象が強い。
47	漢字よりもライトな気がする。	生々しい感じがする。
48	やわらかいイメージ	強い大きなイメージ
49	カタカナの方が、俗っぽく感じる	—

④ カタカナ表記【政治とカネ】の表現効果(読み方を含む)に言及する回答

【政治とカネ】とカタカナ表記することで何らかの表現効果が生まれていると感じ、記述した回答者も23人存在した。これらは、「否定的・肯定的」「硬軟」などの価値判断よりも表現効果に注目する回答である。一部を表12に示す。

表12:【政治とカネ】の表現効果(読み方を含む)に言及する回答(④、一部)

回答者	【政治とカネ】	【政治と金】
50	カタカナ→裏側にある「何か」を感じさせる印象	漢字→漢字だけでかたい印象
51	文字として目にはいりやすく、誰れもが認識できる。	しっかりと伝える(やや堅い印象)がある。言葉に重みがある。
52	カタカナだと、「カネ」が強調されているように見える。	漢字だと、全体的にかたく見える。
53	カタカナの場合センサーショナルな感じやゴシップ感があり目を引く。	漢字の場合ひっきりかきなく流れてしまい目を引きにくい。
54	カタカナの場合、お金だと一目でわかる。	漢字だと「きん」か「かね」かわからない。
55	「かね」とよむのか「きん」とよぶのかすぐわかる	—
56	カタカナ→「カネ」だけだとわかる…? 金—かね—にげんていされる。	漢字→「きん」ともよめるので、鉱石のようなものも含めるのかなど感じた。
57	カタカナ 無気質な感じがする。「政治」と次元が異なる感じがする。確実に読める。	漢字 同列な2つのものという感じがする。いろいろな解釈がある印象。
58	カネと表記されると何かありそうなひっきりかきを感じる	ただ単に政治とお金のしゅみかわかりそう
59	カタカナにすることで軽く済ませていい話ではないという印象を持つ。漢字よりも目に入ったときにインパクトがある。	漢字だと「政治の話」として流れてしまいそうな印象がある。
60	カタカナ表記だと「かね」について、詳しく話す、説明するのかと感ずる。注目してほしいのかと感ずる。	—
61	カネだとカネが強調されカネに問題やテーマがあるように感ずる。	政治と金だと単に「政治」と「金」をならべているだけだと思う。
62	「カネ」と書かれていると、わざと漢字で書かないことに意味を感じ、自分がいつも使う「お金」という言葉とは別の意味が加わっているように感ずる。	「金」と書くと、普段自分が「お金」と書いている影響で自分がいつも使っているお金のように感ずる。
63	カタカナ:問題の本質を得ている感じがする。目立つ。	漢字:鋭さがない
64	カタカナの場合、カネが強調され目にとまりやすい。(意味ありげな感じがする。)	漢字の方が印象薄。
65	カタカナ…キャッチーな印象。また、手あかのついた「金」をあえて感ずさせない	漢字…「金」という物質の中身の印象を強く感ずる。
66	カタカナ:一般と異なる表記にすることによって強調。	漢字:強調されないなので、重要度が低下。
67	政治よりも「カネ」の方に目が向きやすく、「かね」の話の方が大切な話である印象。	政治と「かね」それぞれの話を公平に大切な話として扱う印象。

【政治とカネ】の表現効果を指摘しつつ、【政治と金】には「かたい」印象をいだいている④-1

に分類された3人の回答は、50～52である。53と54は、④-2の【政治とカネ】【政治と金】双方で表現効果について指摘する回答である。④-3に該当するのは、漢字表記に対する記述がない55のような回答を含む18人分である。表12では、55～67にその一部を示した。

読み方に関連する回答は、④に分類した23人中4人に見られた。表12の54～57である。ほかに、①-4に分類した回答者と表10の30も読み方に言及している。表7・8で抽出された「かね」「きん」は、これらの記述に用いられたものである。

⑤ その他

以上の①～④に当てはまらない10人の回答は表13のとおりである。76・77は【政治とカネ】における記述内容がこれまで述べてきた複数の要素を含むため、ここで挙げることにした。

表13：その他(⑤)

回答者	【政治とカネ】	【政治と金】
68	政治の世界と国民に関係する内容に感じる。	政治を行う世界のみに関連する内容に感じる 政治=お金にまみれた印象がある
69	カタカナだと身近なところでの金の使い道(商店街)などの印象。	漢字だと国家での金の使い道の印象。
70	カタカナ:お金を想像する。	漢字:お金より「きん」を想像する。
71	カネは経済の仕組みがイメージした。	金の方がお札の絵がうかんだ。
72	カタカナはお金の使われ方というイメージ。	漢字はお金そのものというイメージ
73	いつも使う「金」と意味が違ってそうだから	私たち一般人が使うお金
74	消費者に関係する「カネ」にとれる。	政治資金や税金にとれる。
75	「政治とカネ」は、お金だけじゃなく、色々な物(物品等)も含まれていて、その中の代表としての「お金」な感じがする。	「金」だと、そのままずばり「予算などの金」な感じ
76	「かね」に関する背景も含まれる印象を受けます。 「かね」そのものというより、それにまつわる事象(事件や取引など)全体を指しているように受け取れます。また、伝え手が「かね」を強調したいのだろうという印象を持ちます。	「かね」そのものを指しているように感じます。
77	カタカナ:テレビのテロップなどで普段からみかける印象。「カネ」と書いた方がインパクトがあり、何となくいやらしいというか汚れたお金のような感じがする	漢字:堅いイメージ。新聞っぽいと思った。

表13の記述内容には、【政治とカネ】【政治と金】における印象の多様性が顕著に表れている。68の回答者は、【政治とカネ】と【政治と金】とが指す金銭の意味範囲を異なるものと捉えている様子であり、【金】は【カネ】の一部分として認識されている。69にとっては【カネ】【金】いずれも〈金の使い道〉であるものの、その規模には〈商店街〉〈国家〉と非常に大きな相違がある。70が想起するのはいずれも物体であるが、【カネ】は〈お金〉、【金】は〈お金より「きん」〉(筆者注:「金塊」の意であろうか)を想像させるものであるという。71・72の回答者は、記述内容は異なるものの、いずれも【カネ】を形のない抽象的な概念、【金】を具体的な形を伴う金銭と捉える。また、73にとっては【金】が〈一般人が使う〉金銭であるが、74にとっては【カネ】の方が政治資金や税金ではない〈消費者に関係する〉金銭であるという。回答者75～77の記述からは、【カネ】がもたらす印象や意味合いの広く重層的であることを推し測ることができる。

■印象が「異ならない」とした回答者

最後に、【政治とカネ】と【政治と金】の印象が「b. 異ならない」と答えた回答者9人に「なぜわざわざ「カネ」と表記していると思うか」を尋ねた Q18-3 に対する自由記述を参考までに提示しておく。

印象の操作に関する記述が6人において見られた。〈汚職とかダークな印象を与えるためではないか。〉〈かたくるしさを感じないようにするため。〉〈「金」と表記すると、悪い意味がするため。〉〈カタカナの方が漢字でかくより悪く(?)見えるから。〉〈読み手に興味を持たせるため〉〈変化をもたせるため〉という内容である。

また、読みやすさに関する記述は3人において見られた。〈読みやすいように。〉〈わかりやすい(見やすい)から?〉〈きんと読ませないため。〉というものであった。

なお、印象が「異ならない」と回答した9人の接触メディアを確認すると、9人中6人は8番のメール・Twitter・LINEによって日本語に接する時間が最も長いと回答しており、残りの3人は7番「インターネット(携帯電話・スマートフォン)」と回答していた。

5.3 カタカナ表記の【政治とカネ】の【カネ】は、どのような金銭であると言えるのか(RQ3)

以上の結果を踏まえると、【政治とカネ】の【カネ】とはどのような金銭であると言えるのだろうか。

本稿の調査結果には、現代の日本語使用者が【政治とカネ】という表現から受ける印象の多様多彩である様子が表れている。まさに100人いれば100通りの記述がそこではなされていた。しかしそれでも、大まかな傾向は読み取ることができる。本稿の調査対象者の約6割は、【政治と金】と比べた場合の【政治とカネ】に、「裏金、悪い用途に使われる金銭」といったイメージに代表される否定的なイメージ、悪のイメージなどをいだいた。【政治とカネ】の【カネ】はまず、「否定的か肯定的か」「善悪」という二項対立で見ると、「否定的」で「悪」のイメージが付着した金銭であると言いきそうである。

一方で、約1割の回答者においては、「軽い」「やわらかい」イメージを持つ金銭であるとの見方もあった。さらに、今述べた2種類のいずれにも当てはまらない回答者が約3割存在した。つまり、【カネ】と【金】には表記の違いによる「印象や意味の明確な分化」までは起きていない。【金】とは異なる独立した印象あるいは意味の世界を【カネ】は日本語使用者個々人の中に形成していると考えられるが、「否定的な印象」が日本語使用者全体の共通認識であるとは見なすことができない。これが、本稿の調査によって明らかになった現状である。それでも、本稿の調査結果を踏まえれば、現代の大多数の日本語使用者にとって【政治とカネ】の【カネ】が【金】とは異なる金銭であることは間違いがなさそうである。

6. おわりに

本稿では、現代の日本語使用者が【政治とカネ】【政治と金】各々に対していただく印象を調査し、

その詳細を報告するとともに、【政治とカネ】の【カネ】がどのような金銭として現代の日本語使用者に受容されているのかを考察した。【カネ】に対して受け手がいまだ印象に大まかな傾向は認められるものの、そこには個人差、個別性が存在することも浮き彫りになった。

本稿を成すにあたり、当初は自由記述の内容を分類・コーディングして分析した結果のみを提示しようと考えていた。しかし、受け手側の印象が多様であることを知り、2018年時点での日本語使用者の生の声を記録として残すことにした。現代において【政治とカネ】【政治と金】がどのように受容されているのか、その実態の一端を示し得たことが本稿の成果である。

無論、本稿の調査はサンプル数が少なく、属性にも偏りがあるため現代の日本語使用者における現状を十分に反映しているとは言いがたい。性別や年代、職業等の属性によって結果は変わる可能性があるが、それを検証できるだけのデータは収集できなかった。本稿で提示したような印象の多様性がどのようにして生じるのかも不明である。試しに表1で抽出された記事のいくつかをランダムに確認すると、【政治とカネ】の【カネ】はほぼすべてが政治絡みの否定的な意味合いを持つ金銭なのである。それにもかかわらず、本稿の調査対象者の約4割はそれとは異なる回答をしたのであった。明らかにすべき点は残るが、今後の課題としたい。

注

- 1) 本稿における【 】は、【 】内の文字種を使用して表記されていることを示す。
- 2) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)は、国立国語研究所が構築した大規模な日本語のデータベースである。現代日本語の実態を代表するよう媒体やジャンルのバランスを考慮して収集された約1億430万語が収録されている(国立国語研究所コーパス開発センターホームページ、2009)。国立国語研究所コーパス開発センターのホームページから、一部無償で利用可能である。
- 3) 柏野和佳子・中村壮範(2013)は、さらに調査対象をBCCWJの全収録語に広げて、同様の調査を実施した。その調査結果によれば、「金(かね)」という語の使用頻度総数は19,742であり、うち漢字表記【金】の使用頻度は18,766(95.1%)、【カネ】は961(4.9%)である。本稿の2章では、「金」がカタカナ表記される理由への言及がある柏野・奥村(2012)を提示した。
- 4) 愛知淑徳大学図書館が契約しているデータベースである。(検索日:2019年9月13日)
- 5) 検索日:2019年9月15日
- 6) 本調査は、愛知淑徳大学人間情報学部倫理審査委員会の承認(2018年7月5日付、2018-007)を受けて実施した。謝礼として図書カードで500円を支払った。
- 7) 他の調査項目に関する結果は、増地(2019b)でその一部を示した。その他の項目についても、別稿にて報告していく予定である。
- 8) <https://textmining.userlocal.jp/> (2019年9月17日現在)

文献

- 柏野和佳子・奥村学 (2012) 「和語や漢語のカタカナ表記－『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における使用実態」『計量国語学』28(4)、pp.153-161
- 柏野和佳子・中村壮範 (2013) 「現代日本語書き言葉における非外来語のカタカナ表記事情」『第4回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』pp.285-290
- 国立国語研究所コーパス開発センター ホームページ (2009) 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」
https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/ (2019年9月6日閲覧)
- 杉本豊久 (2009) 「日英語の変異性－英語変種のつづり字表記と日本語カタカナ表記の比較分析」『成城文藝』208、pp.84-50
- 中山恵利子 (1998) 「非外来語の片仮名表記」『日本語教育』96、pp.61-72
- 野村雅昭 (1981) 「週刊誌のカタカナ表記語」『馬淵和夫博士退官記念 国語学論集』馬淵和夫博士退官記念国語学論集刊行会編、大修館書店、pp.847-865
- 増地ひとみ (2013) 「テレビ番組の文字情報における文字種を選択－番組のジャンルと語用論的要素に注目して」『早稲田日本語研究』22、pp.24-35
- 増地ひとみ (2019a) 「非外来語のカタカナ表記」研究の現状と今後の展望」『愛知淑徳大学論集 文学部篇』44、pp.143-159
- 増地ひとみ (2019b) 「オノマトペを表現する文字種を選択要因－「キンキン」と「ふわふわ」をめぐって」『愛知淑徳大学論集 創造表現学部篇』9、pp.33-47

付記

本稿は、早稲田大学日本語学会 2018 年度後期研究発表会 (2018 年 12 月 8 日) における発表の一部である。また、本稿は、愛知淑徳大学の特定課題研究助成「非外来語のカタカナ表記に関する意識調査」(平成 30 年度)、「学術的な文章における非外来語のカタカナ表記－実態調査と出現要因の検討」(2019 年度) の成果の一部である。